

第一回理事会に80名

平成十八年度の第一回理事会が、六月二十八日の午後六時から、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で約八十人が出席して開催された。会では、挨拶に続いて各種報告が行われた後、平成十七年度決算や十八年度の事業計画並びに予算等について審議し、すべて原案通り承認した。

開会の挨拶で辻兵吉会長は、まず、菅原洋前校長の早期退職を惜しむとともに柴田義弘新校長へ大いなる歓迎の意を表した。次いで会長は、少子化傾向のなかで、歴史と伝統を誇る母校が、公立高校の雄として全国的にさらに充実発展していくことへの期待を述べ、そのため同窓会としても全力で支援していく旨の決意を披瀝するとともに、会員諸氏の協力を要請した。

次いで挨拶に立った柴田校長は、冒頭、現在の生徒数は校歌にある「一千健児」を下回って九百五十名となり、そのうちの四十パーセントが女子生徒であることを紹介した。次いで校長は文武両面から学校の現状を紹介したが、まず学業面では、今春の大学入試で東大合格者数が昨年に引き続いて十人（現役八・過卒二）の二桁に達したこと、現役八名は仙台二高と並んで東北地方ではトップである事実を披



露して注目を集めた。一方、部活動関係では、山岳、ボート、卓球、剣道、フェンシング等が団体または個人で、八月に大阪で行われるインターハイへの出場が決定していることを披露するとともに、東北大会で準優勝したラグビーや中央地区大会で優勝した硬式野球の活躍にも言及して、今後の一層の協力と支援を要請した。

この後、恒例によって辻会長が議長席に着き、次第に従って各種の報告に移る。最初は、会務報告で、仙波事

務局長が資料に基づきながら手短かに会務一般の報告をした。次は常置委員会報告で、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・柴山芳隆の各委員長がそれぞれの所管事項について簡潔に報告した。

理事会は次いで議事に入り、

まず仙波事務局長が平成十七年度決算（一般会計・基金会計・名簿会計・退職金積立会計）について説明。小玉康延監事から監査報告を受けた後、満場一致で十七年度決算を承認した。

最後に理事会は平成十八年度の事業計画ならびに収支予算案について事務局長から説明を受け、それらに関して慎重に審議した結果、総額一千九百万円余りの予算案を含め、すべてを原案通り承認して会を閉じた。

第一回役員会

今年度最初の役員会が、六月五日の午後五時からシャインプラザ平安閣で行われ、辻兵吉会長以下、会を構成する十七名の役員のうち十五名が出席した。

まず、会長挨拶に引き続き続いて事務局や常置委員会からの各種報告を諒承。その後議事

に入り、平成十七年度決算や十八年度予算について慎重に審議した結果、事務局提出の原案を一部修正して、第一回理事会への原案を決定した。

常置委員会異動

▼企画委員会

〈退任〉 寺田 和夫(学)

委員 有明 雅弘(学)

〈就任〉 (広報へ)

委員 有明 雅弘(学)

▼財政委員会

〈退任〉 佐藤 公世

船木 文子(学)

(転勤のため)

嵯峨 成一(学)

〈就任〉 関 一(学)

渡部 潤治(学)

▼名簿委員会

〈退任〉 工藤 昭二(学)

(転勤のため)

和田 央(学)

▼広報委員会

〈退任〉 西山 光子(学)

(AIU研修のため)

寺田 和夫(学)

館岡 曜子(学)

〈就任〉

館岡 曜子(学)

寺田 和夫(学)

館岡 曜子(学)

館岡 曜子(学)

天上天下

必要があって、ずいぶん久方ぶりに『きけ わだつみのこえ』を読んだ。それぞれ短い文章ではあるが、両親や兄弟姉妹などに宛てられた手記には肉親への愛情と惜別の情が切々と綴られているし、友人知人への手紙には惜別とともに感謝の気持ちが多く述べられている。もっと長く会っていたら、恋人に対す率直な心情を吐露した文章もあった。国のために死ぬことを誇りに思うと書かれた遺書に接すると、その当時の日本国は、純粋な学徒達が命がけで守るために働ける国家であつたのだろうかと思像され傷ましい気持ちになる。▼六〇年安保の当時、「声なき声」という表現を時の総理大臣が頻用して話題になった。今ならさしずめ「流行語大賞」というところであろう。▼昨今、憲法や教育基法をめぐっての議論が喧しい。もちろん、政治の場での討論や法律的観点からの議論も大切だが、戦死した学生達のみならず、「こえ」を残すことすらできないまま死んでいった若者達の戦争に対する思いや訴えにいま一度真摯に耳を傾けてみる必要があるのではなからうか。